

レプトスピラとは

レプトスピラはレプトスピラ属細菌であり、ネズミなど野生哺乳動物の腎臓に保菌され、尿中に排泄されることで、尿そのものとの接触、または、尿で汚染された水や土壌に接触することで感染症を引き起こします。

レプトスピラは 250 種類以上の血清型があり、国内で原因とされた種類は約 14 種類（2006 年時点）^[1]です。

レプトスピラ症とは

ヒト、イヌ、ネコ、家畜や多くの野生動物が感染する人畜共通感染症です。

イヌのレプトスピラ症は、食欲減退、倦怠感、嘔吐、発熱などを主訴に来院することが多く、進行すると腎不全や肝不全を起こし重篤な状態に至ります。

進行する早さはそれぞれであり、軽症で済むケースもあれば、数日で急激に症状が進み、治療に反応せずに死亡するケースもあります。

また、発症しない、無症状の不顕性感染を起こすこともあります。

レプトスピラは淡水中や湿った土の中で長期間生きることができるため、ワクチン接種以外の予防法としては河川に近づかない、ネズミなどの野生哺乳動物が生息している場所には近づかないことが推奨されています。

秋口に多い感染症であり、台風に伴う河川の増水、氾濫、湿度が起因していると考えられています。

レプトスピラのワクチン

今回取り扱うワクチンはバンガードプラスL4です。

血清型4種（カニコーラ、イクテロヘモラジー、グリッポチフォーサ、ポモナ）を含むワクチンです。国内で感染の原因となる型が14種類ある中で、ワクチンで予防できるのはこの4種がすべてとなり、その他の型への予防効果は期待できないことが欠点です（その他の型の予防、重症化に対する効果の相互作用は不明です）。

しかし、レプトスピラ症は関西以南で多く報告され（最近では千葉県の報告例も増えていますが）神奈川県は毎年5例も満たない報告数（2018年0例、2019年1例、2020年2例）であり^[2]、過去の神奈川県行政調査の感染例は「カニコーラ型」であったことから^[3]、逗子、葉山周辺地域内であれば、今回のワクチンである程度の予防効果が期待できると考えます。

ワクチン接種後も、感染報告数の多い地域への旅行や、レジャーへ行く際は十分に注意が必要です。

今後神奈川県内や近隣の地域の感染状況を注意深く把握していく必要があります。

レプトスピラ単体ワクチンの副作用

特異的な副作用は報告されていません。

他の混合ワクチンなどと同様、当日の激しい運動などは控え、安静に過ごしていただく必要があります。

[1] 小泉信夫ら. レプトスピラ症の最新の知見. モダンメディア 2006 52 巻 10 号 300

[2] 農林水産省、監視伝染病の発生状況、2021.09.07

[3] 石岡慎也ら. 神奈川県動物保護センター管内における飼育動物を対象とした動物由来感染症疫学調査. 2011

フリッパー動物病院